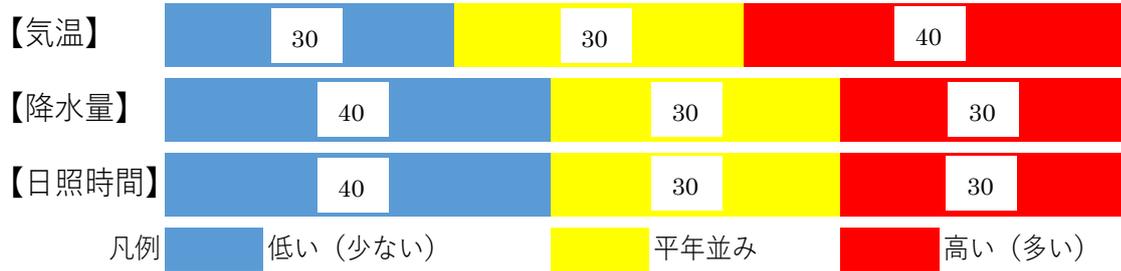


○今後の気象状況

<向こう1ヶ月の気温、降水量、日照時間の各階級の確立(%)>



1ヶ月予報(10/22~11/21)では、気温、降水量、日照時間はほぼ平均並みですが、1週目の気温は寒気の影響を受けやすく平均並みか低く、2週目の気温は寒気の影響を受けにくいいため、平均並みか高い予想です。

○収量・品質向上のための軟白部の確保

- ・軟白部の確保するために、土寄せは太さを確認しながら、25日前後間隔(葉鞘径が前回より3mmほど肥大した頃が目安)で行います。**止め土で合計30cm**(種の位置から)の深さが確保される状態にします。
- ・止め土後は、**軟白期間を確保**してボケを防ぎましょう。止め土前の葉色が弱い場合、収穫の葉数が不足するリスクがあるので**追肥を実施**します。

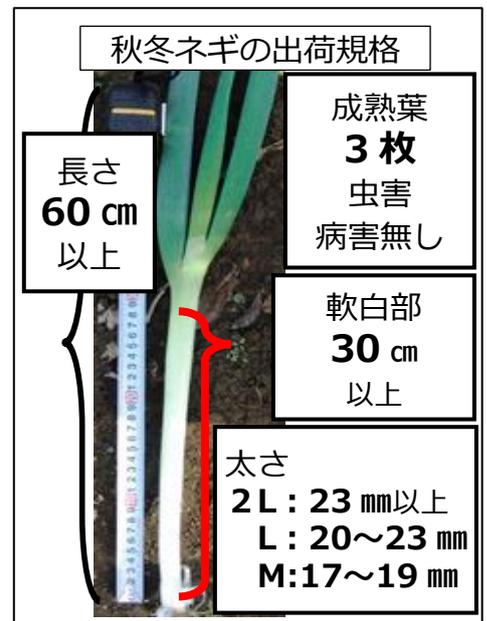


表1 土あげの目安となるネギ生育と栽培管理

土あげ	葉鞘径 (mm)	土あげ高	追肥量
①	15~18	5~7 cm/回	2~3 kg/10a (窒素・カリ)
②	18~21		
③	21~24		
止め土	24~27	5~10 cm	

表2 軟白に要する日数

軟白に要する日数の目安	
収穫時期	止め土期間
11月	30日前
12月	40日前
1~3月	50日前

○秋雨対策

排水路を確保しましょう。首が伸びている時には土寄せを実施します。

○きれいな成熟葉3枚の確保

- ・秋は、**葉枯病（黄色斑紋症状）、べと病、さび病、小菌核腐敗病**の防除が重要です。収穫期の病害では、特に葉枯病の黄色斑紋病斑が品質低下を招きます。黄色斑紋病斑の発症適温は15–20℃。葉先枯れ症状や斑点症状が多いほ場では、発生リスクが高まるのでより注意が必要です。
- ・秋には、**シロイチモジヨトウ**や**ネギコガ**が発生しやすく、幼虫の食害により葉に穴が開くなどの被害がでます。
- ・葉枯病には「プロポーズ顆粒水和剤」、「テーク水和剤」、「ポリベリン水和剤」、「アミスター20フロアブル」が、シロイチモジヨトウとネギコガには「アニキ乳剤」「グレーシア乳剤」が登録されています。

【注意】1 「2022年10月1日現在の登録内容です」2 参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する方は、必ず、使用前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍率や使用量、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。また、農薬の安全評価に新たな手法として短期暴露評価が導入されることとなりました。それにとともに、農薬によっては使用できなくなる作物が生じたり、使用方法の変更が行われる場合があります。短期暴露評価により使用方法が変更された農薬は、農薬容器のラベルに記載された使用方法ではなく、変更後の使用方法が記載されたメーカーのチラシなど、最新の情報に従って使用して下さい。最新の情報は、農薬の販売店や茨城県病害虫防除所のホームページ等で確認して下さい。

○収穫・出荷調整

- ・止め土から基準日数が経過したら、軟白部や太さを確認して収穫します。収穫遅れは、「つやなし」や白身が長すぎる「棒ネギ」、肥料切れは出荷後の葉の黄化につながるので注意します。
- ・出荷規格に応じて、根と葉を切り、外葉をむきます。
- ・根は、長さ3mm程度で切りすぎないようにし、葉の切り口は、真っ直ぐ平らにします。
- ・太さに応じて選別し箱詰めを行います。商品性を高めるために、一番外側の葉を鑑にむけ、葉柄の首の位置をそろえます。

○ネギの経営収支例

10a 当り収量		600 ケース (3t)	500 ケース(2.5t)	400 ケース(2t)
販売額 (千円)	A 品率 80%	81.6 万円	68.0 万円	54.4 万円
	A 品率 60%	73.2 万円	61.0 万円	48.8 万円
10a 経費 (千円)	物財費	270		
	出荷 経費	80%	170	142
		60%	162	135
所得 (千円)	A 品率 80%	37.6 万円	26.8 万円	16.1 万円
	A 品率 60%	30.0 万円	20.5 万円	11.0 万円

※単価：A 品 1,500 円/箱、B 品 800 円/箱（参考 R1:12 月～R2:2 月単価）。経費は茨城県経営指標等を考慮。

- ・試算では、【A 品率 80%・収量 600 ケース】と【A 品率 60%・10a 当り収量 400 ケース】の場合を比較すると、販売額で約 32 万円、所得では 27 万円の差となる。これからの栽培管理を徹底し、少しでも A 品率向上と多収を目指しましょう。